

国際医療交流の拠点づくり 「りんくうタウン・泉佐野市域」地域
活性化総合特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(3.5+3)/2=3.3$

3.3

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	国際医療交流の推進	65%	3
2	訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進	66%	4

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 0 + 4 \times 1 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 2 = 3.5$

3.5

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(3+3.3+3.8)/3=3.4$

3.4

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.3

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.8

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

・一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューローなどとの連携による広域観光の枠組みを構築したことは高く評価されるが、これを具体的なツアーなどを通して社会実装化していくことが期待される。

3.5

・インバウンド視点で安全安心となる医療基盤の整備は極めて重要ではあるが、地域への観光貢献を考えると医療目的であっても急を要せず滞在に資するマーケットを選別してプロモーションを行うことも必要。

・大阪府南部と和歌山県北部の紀東地域において観光地域として一体的な取組を進めることと、著名な世界遺産である高野・熊野地域と連携を進めることでは、取組の内容が異なってくる。前者は当地を含むエリア全体としての魅力増加を図ることで、結果的に当地が滞在拠点としての役割を果たす可能性を有するが、後者は高野・熊野地域のあくまでゲートシティとしての役割となり、対象地域への利便性やイメージとしての一体化が施策となろう。施策として両方を進めていくことは当該地域の滞在を増やしていくことにつながるが、この差異について明確に意識しながら、より効果的・効率的に施策を展開することが必要である。

・観光資源を有する地域との連携や地域資源の磨き上げの中で多少言及されているが、総合特区の仕組みを活用し、新たな創意工夫を盛り込んだ取組の実施を期待したい。

3.5

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(3.3+3.4+3.5 \times 2) / 4 = 3.4$

3.4

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。